

令和元(2019)年度卓越大学院プログラム審査結果

機関名	東京工業大学		
プログラム名称	最先端量子科学に基づく超スマート社会エンジニアリング教育プログラム		
プログラム責任者	岩附 信行	プログラムコーディネーター	阪口 啓

[採択理由]

来たる超スマート社会を牽引するためには、サイバー空間とフィジカル空間の技術に加えて、最先端の量子科学を融合する能力を持つ人材が産官学問わず今後世界中で必要になるとの課題認識に基づき、東京工業大学が卓越した業績を持つ量子科学分野、フィジカル空間技術分野、サイバー空間技術分野を横断し、社会連携教育と異分野融合研究を融合させたプログラムである。社会連携を推進するために、超スマート社会に関わる30以上の機関が参加している「超スマート社会推進コンソーシアム」を構築しており、国立研究開発法人、民間企業、自治体との連携の中で人材育成を行う点は評価できる。また、量子科学と人工知能の基幹的学力を付けた上で、「専門学力・独創力」「社会連携俯瞰力」「異分野融合課題解決力」「グローバルリーダーシップ力」を涵養するため、幅広く13の教育方策を実行することとしており、他機関との連携によって、専門性のみならず社会との連携意識を高め学生の視野を広げる工夫がなされている。

東京工業大学において整備されている既存の組織や実施中の他プログラムと密接に連携して運営されることから、社会連携、教育、研究、国際面での実績に基づいたグローバルリーダーシップ教育を実施することが期待される。また、人文・社会科学分野との連携を更に強化することによって、グローバルリーダーとして課題解決を牽引する卓越した博士人材が育成されるであろう。

学長のリーダーシップの下に設置された「戦略統括会議」において、本プログラムの評価分析と意思決定が一元的に行われるガバナンス体制が構築されており、着実な運営がなされることが見込まれる。

これまでの大学院教育改革の取組や成果を更に発展させながら、大学院全体のシステム改革のうち本プログラムにおいて実現するとしている各項目を着実に進めていくことが望まれる。